

2024~2025年度 YAMAGATA EVENING ROTARY CLUB 山形イブニングロータリークラブ会報

第963回例会(第24回例会) 2025年3月10日

例会場：フォーラム 例会日：月曜日18：00～
会長◎結城佳紀

●事務局●
山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル2階
TEL 023-632-7777 FAX 023-624-5200
●E-mail●evening09@rid2800.jp
●H P●https://www.yere-rc.com



ロータリーのマジック

映画鑑賞例会「35年目のラブレター」

第963回例会は、フォーラムでの映画鑑賞例会でした。「35年目のラブレター」を鑑賞し、皆感動で、涙ぐんでいる会員も見られました。結婚してから配偶者にラブレターを書いた事があるでしょうか。そして当たり前の日常に感謝した事があるでしょうか。そんな事を考えさせられる素晴らしい映画でした。(後藤記)

ストーリー

「君は、僕と結婚して、幸せでしたか？」
西畑保、65歳。文字の読み書きができない。そんな彼の側にはいつも最愛の妻・餃子がいた。保は貧しい家に生まれ、ほとんど学校へ通えず大人になった。生きづらい日々を過ごしてきたが、餃子と運命的に出会い、めでたく結婚。しかし、その手放したくない幸せ故に保は読み書きができないことを言い出せずにいた。半年後、ついにひた隠しにしてきた秘密が露見し別れを覚悟する保だったが、餃子は保の手をとりながらこう告げた。「今日から私があなたの手になる」その言葉に、その眼差しに、保は救われた。どんな時も寄り添い支えてくれた餃子へ感謝のラブレターを書きたい。定年退職を機に保は一大決心し夜間中学に通い始める。担任の谷山恵先生のじっくりと粘り強い教えや年齢・国籍も異なる同級生たちと共に学ぶ日々で少しずつ文字を覚えていく保。だが老齢のため物覚えも悪く、気付けば5年以上の月日が経過した頃、一字また一字と書いては消した書くひたむきな保と、それを見てもなく見守る餃子は結婚35年目を迎えていた。変わらない日常がいつまでも続くと思っていた。なかなか書き上げられずにいたラブレターがようやく形になろうとしていた頃、餃子が病魔におそわれて……。あとは見ていない会員は映画館に足を運んで下さい。

一通のラブレターを巡る夫婦の実話をベースにした人間ドラマ。妻へ感謝のラブレターを書くため勉強に奮闘する夫と、長年支え続けた妻の姿を描いた実話を、『今日も嫌がらせ弁当』の塚本連平が監督と脚本を手がけて映画化。『閉鎖病棟—それぞれの朝—』の笑福亭鶴瓶が主人公の西畑保を、「あなたの番です」の原田知世が妻の餃子を演じる。また、『ある閉ざされた雪の山荘で』の重岡大毅と『夜明けのすべて』の上白石萌音が、青年期の西畑保と餃子をそれぞれ演じるほか、江口のりこ、笹野高史、安田顕らが共演する。

この映画に関するホームページをもとにまとめました。



◆出席報告

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日	23	-	10	-